

	活動の基本目標 (指針)	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保 健康の管理・情緒の安定 基本的生活習慣の確立 社会生活技術の獲得	整理・整頓の指導 月1回のロッカー掃除 長期休暇の館内清掃 健康管理・手洗い・うがい・消毒の指導 出席確認 (QRコード読み取り) ハンカチ持参の徹底 安全指導 夏休み中のお茶タイム、お昼寝タイム 水遊びやスイカ割り、すだれ設置等涼む工夫 公園遊びのルール化 生活リズムを整える (プログラム作成) あやつの励行 おやつの提供 (当番活動あり) 集団帰宅指導 (月1回の指導を含む) 年末・年度末の大掃除	安全の確保として、来館時のQRコードを用いての出欠登録の習慣づけの強化、衛生面の確保として、手洗い・うがい・消毒時のハンカチ持参の習慣づけの強化を図った。うがいを忘れていたことも多かったが、なぜ手洗いうがいをしないといけないのか、なぜ忘れたのか、なぜ手洗いうがい・うがい・消毒の徹底、マイコップ持参を保護者に周知し、衛生面の確保に努めた。 新しく入会した新1年生に関しては、基本的生活習慣を優先的に確立できるよう努め、生活の流れを把握するよう、重点的に声かけをした。毎月、正規職員・非常勤職員全員での職員会議を行い、こどもたちの情報を共有し、一人ひとりにきめ細かい対応ができた。学童クラブ日誌の活用や、息巻の徹底により濃密な情報共有ができた。今後も情報共有は迅速に、こまめに行う。 健康面では、夏休み中のお茶タイム、お昼寝タイム、夏休み中も、マイコップを持参してもらおうよう保護者に協力をお願いした。「水筒からっぽ大作戦」では、持参した水筒が空になるほど、水分補給をすることで息巻と呼吸が合うように呼びかけた。また水遊びやスイカ割りなどを実施し、暑い夏を涼しむ工夫をした。また、公園遊びのルールをこどもたちと共有し、安全確保ができ、結果こどもたちの遊びの幅が広がった。 「たのびたいま」 「さようなら」 「ありがとう」などのあいさつは職員が率先して行うようにした。また、大人に対して挨拶や依頼をする場面、自然に言えるよう習慣づけた。声かけをしないという保護者の要望が増え、該当する児童については、できるだけ要望に答えられるよう行った。近年、学童で必ず宿題を行うよう習慣づけた。おやつ当番は、一人一人が責任感を持ち、当番の仕事をしつかりと行うことを目指し、1年間活動した。宿題を忘れている下級生に上級生が声をかけたり、当番のメモ帳を渡して協力しておやつ活動を行う姿が見られた。また年末・年度末の大掃除では、事前に掃除の意義や道具作りをこどもたちと一緒にすることで意識づけができ、「自分たちが過ごす児童館を綺麗にしよう」と一生懸命に取り組む姿が見られた。
子ども育成機能	生活体験の拡大 社会性の養成 自立の促進と自主性の尊重	季節行事、集団遊び 館外活動 当番活動 乳幼児親子との交流 班活動、班長育成、お誕生日会	こどもたちの自主的な遊びを尊重しながら、大人が関わって行う集団遊びや伝承遊び紹介など、いろいろな体験をさせた。毎週金曜日「みんなあそび」の日とし、主に外で思いっきり体を動かす遊びを行った。また四季折々の歳時記を体験させながら、こどもたちが皆から行われている様々な事柄を伝承する機会を作った。(七夕、節分など) こどもたちは、一つ一つの遊びや行事に真剣に取り組み、盛大に楽しんでいる姿があった。3年生の活動として、「おやつの買い物」をこどもたちみんながとでも楽しみにしていた。3年生会議を開き、自分たちで買い物に行くスカーパーを決めて買い物に行く準備をし、リーダーとしての自覚を促した。月毎に級名のグループでスカーパーに行き、おやつを予算内で選び、合計も自分たちで行い、買ってきのおやつを児童館で下級生などに配ることで、こどもたちの協調性や社会性が培われた。自主的に下級生におやつのリクエストを聞いたり、アレルギーマイルールを聞いておやつを運んだり、予算ギリギリまでおやつを悩んでいたりと、3年生の成長を大いに感じることができた。 乳幼児親子との交流は、毎年2年生対象に行っているが、乳幼児と関われることを嬉しく思うこどもたちも多く、積極的に手遊びや体操を練習したり、読み聞かせする絵本を真剣に選んだり、赤ちゃんやと保護者に積極的に声をかけたりと前向きに取り組んでくれた。こどもも例年行っている会食や手作りランチは今年度も実施できなかったが、保護者にも浸透してきているお弁当がないデーを実施。こどもも保護者も喜んで声が行った。昼食に届いたパンやお弁当を、高学年が並べて配った。積極的に手伝ってくれた姿があった。強制的に参加させるのではなく、こどもたちの自主性を尊重し、それぞれが行える役割を考え進めていった。宿泊活動は10月、満員は3月に実施した。宿泊活動は3年生以上を対象だったが、2年連続で参加している上級生が、初めて参加する下級生にいろいろな情報や伝えたり、大人の手伝いを申し出てくれたりし、2日間ではあったがこどもたち以上に上級生がリーダーとなってグループをまとめ、下級生を上手にリードする姿が見られた。一般の方もたくさん来館されている中、乳幼児さんにも遊ぶ順番を譲ってあげるなど、子どもたちの成長した姿が見られた。
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換 子育ての仲間づくり 子育てを支えるネットワーク形成	保護者と児童館が連携を図る PJ A「学童クラブ保護者と児童館の会」の活動 おたより発行、うえぶさくらの活用 小学校の連絡協議会 子育て相談 小学校の運動会見学	こどもの様子や児童館の活動を、毎月のおたよりや保護者懇談会などで保護者に伝えていった。毎月、おたよりをうえぶさくらに掲載し、前月の子どもたちの様子を写真付きで保護者に知らせた。また、怪我や友達とのトラブルについては、直接保護者に連絡し、伝えるように心がけた。その結果、保護者の考え方や家庭の様子などを知ることができ、保護者と児童館との信頼関係に繋がっていると感じた。個人懇談会では、こどもの児童館の様子や家庭の様子、保護者の様子を窺い知ることができた。また、宿題を児童館でやっている間には嬉しいと思っておられる家庭も多かった。これらを通して、児童館と保護者との連携を図ることができたと感じる。こどもが児童館でどのように過ごしているのか、友達と遊んでいるかどうかどうかが気になっていた。小学校の見学に行ったり、小学校とは連絡協議会を設け、こどもの情報交換・共有を図った。児童館とは連絡がとれることができた。小学校の様子や、保護者の様子を学校側は連絡協議会を通して児童館と保護者との連携を図ることができた。小学校の見学に行ったり、学校の協力が得られるようこちらから学校へ出向いていく努力もした。結果、児童館と学校との連携を図ることができた。 PJ A (保護者会) の活動は、夏まつりのお手伝い、すみよし焼きいもデー、親子行事 (ドッジボール大会) などたくさんさんの活動ができた。特に夏まつりは暑い中の開催だったが、保護者会の協力のもと無事に終えることができた。来年度も、たくさんさんの活動ができるよう、引き続きサポートが必要である。

動報告白書

[illegible]

行事名は、(1)生活援助機能 (2)子ども育成機能 (3)子育て支援機能に分類して記入すること
2クラス以上の館所で、クラスごとで異なる取組・行事を実施した場合は、行事名と併せて、クラス名を記入すること

※1
※2
※注